



### 桜島火山の赤熱噴石

#### 「写真説明」

しばらく平静を保っていた桜島火山はこの11月1日、2日にわたり数回の小爆発をおこし、かなり多量の赤熱噴石を噴出し、それに伴って山火事が生じ、鹿児島からみると多数の大赤提灯の中腹以上一帯にぶらさげたようである。なかなかの奇観でした。

岸原康雄氏は1日21時27分の爆発後約10分を経過した頃写真撮影に成功した(ヤシカ、F3.5、ネオパンSSS、10分間露出)。弱いものは写っていないので屋間撮った写真上に光点をプロットしました。第2図は翌朝調査しました噴石の平面分布図でして、×印を付したところには直径

1.5m以上の巨大新噴石が上方に滑り跡をのこして半ば埋って転がっていました。

従来桜島の噴石は主としてSE方向に遠く及び、北岳斜面にとぶことはすくなかったのですが、今回は北岳方面にもかなりとびましたのは、今回の赤熱噴石は従前のものと異り比重0.95ぐらいの軽いものであったため、風によって流されたものと考えられます。なお火口は海抜900m、噴煙の最頂は海抜約3,500m、1日21時の高層風は地上でNW2.8m/s、1,000mで186°、3m/s、2,000mで219°、6m/s、3,000mで253°、9m/sでありました。

(安井 豊)

